



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達の気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

専門アドバイザーの仕事を紹介します



発達障害が疑わしいお子さんには、環境が大切です。本人に特性があっても、友達や教師などの人的環境、物的環境が整うと、学校の中での困り感は大いふ軽減されます。

2年生のあるクラスの体育の授業を参観しました。クラス全体で長縄を跳んでいて、近いうちに大会があるのだと予想されました。決められた時間の中で、何回跳べるかをクラスごとに競う大会であり、子供達は真剣に跳んでいました。

「回してぴょん」というのがそのクラスのかげ声で、「ぴょん」の時に縄の中に入るルールになっており、長縄が不得意な子にもわかりやすくなっていました。

また、縄にひっかかった児童がいると、教師は的確にどうすればよいかをその場で短い言葉で伝えていました。無駄がなくて、とても良い指導をしていると思いました。

さらに、それ以外に私が参観してすぐ気づいたのは、失敗した子がいたときに、「どんまい」「大丈夫、大丈夫」と声を掛ける友達がいることでした。長縄が苦手な子は順番が回ってくる度に、回っている縄に入るのに時間がかかったり、ひっかかったりするものです。でも、何回ひっかかって、同じような言葉が友達から掛けられました。そして、ひっかからずに跳べたときには、友達は取り立てて褒めず、「特別扱いしないで良いな」と思いました。

温かいクラスは良いものです。こんなクラスなら、長縄に限らず、何でも挑戦できます。失敗したら、やり直せます。友達の失敗に寛容なクラスは、どの子供達も生き生きしていました。

相談を受けたA君は確かに、よく縄にひっかかるお子さんで、縄のリズムに跳躍を合わせられないことが分かりましたし、教師の話を中心して聞けないことが見て取れましたが、A君がクラスで生き生きと過ごせるための学級経営はA君の自己肯定感を低くしないために一番大切なことだと担任の先生に伝えました。

相談依頼の件数（外部支援）H30.4.1～1月末日まで

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	248件	233件	46件	4件	9件	540件

（その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼）

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。お待ちしております。



群馬県立しrogane特別支援学校
担当：専門アドバイザー 尾岸 純子
電話：027-268-6111
FAX：027-268-6113
メール：shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp